

地方のいま、これから

田舎暮らし、地方活性化のいまは、どんなものだろうか……？
テレビ番組『イチから住む前略 移住しました』で田舎での暮らしを体験した「ずん」のやすさんと布川隼汰さん、そして、「地方創生」の指揮をとる石破茂大臣に、「地方のいまとこれから」について語っていただきました。

文：佐藤雅典 写真：北原千恵美



お笑い芸人「ずん」
やすさん

俳優

布川隼汰さん

スペシャル
インタビュー
1

いまある魅力そのままに
元気な村になってほしい！

移住ドキュメンタリー『イチから住む前略 移住しました』(テレビ朝日系列全国ネット)に出演したふたり。やすさんは山梨県小豆島^{しよどしま}で、布川さんは香川県小豆島^{しよどしま}で、3か月の移住生活を体験した。やすさんは山間の築百年の空き家を借りて、道の駅やヤマメ養殖場でアルバイトしつつ、近所のおばちゃんたちに畑づくりを教えてもらう日々。布川さんは目の前に海が広がる家をもつて、初めてのひとり暮らし。釣りや醤油蔵でのアルバイト三昧の日々を送った。都会に戻ったふたりは、なにを感じているだろうか？

食べものがおいしすぎて、
太って帰って来たふたり

布川 ぼくは東京の生まれ育ちで、両親も都会育ちなので、夏休みに田舎でのんびりという経験がありませんでした。だから老後は田舎がいいなあ、みたいな漠然としたあこがれはあったんです。

やす ぼくは実家が宮崎の田舎なんですけど、もう東京暮らしのほうが長いんだ。Uターンなんて考え

たこともなくて。今回、久しぶりに田舎で暮らしたけど、やっぱりいいねー。食べ物うまいしね。布川 うまいですねー。ぼくは目の前が海だから毎日泳いで、昼間は島の老舗の醤油蔵で力仕事して。それがけっこうキツイから筋力つくし、近所の人々が次々と食べ物を差し入れてくれるからどんどん食べて。3か月で肩幅が広がって太って帰ってきました。

やす ぼくも。小菅村にはお茶飲みという文化があって、10時と3時に縁側でお茶を飲むの。近所のおばちゃんに呼ばれるから行くと、煮物とかコロッケとか、しっかりおかずも出る。「食べなっしえ」と言われるとことわれない(笑)。だから一日5食だった。

布川 小豆島は魚！ これまでイワシとか小魚しか釣ったことがなかったんですけど、島ではスズキが浜から釣れるんですよ！ 50センチはあります。セイゴやキスもすぐにさばいて食べるからめちゃくちゃおいしい。醤油もうまいし。やす ふっくん、魚さばけるの!? 布川 いえいえ、近所の方に教え

ていただいて、さばけるようになり
ました。島の人って生きるため
の知識がスゴいですよ。釣り糸
が引つかかったらこう、草刈りは
こうって、ぜんぶ知ってる。

やす 小菅村の人は、ジャガイモ
を収穫したら、一年中、食べられ
るようにする保存法を知っている。
ほかに食べ物なくなっても生き
ていけるんだよね。それに女性は
みんなソバが打てます。

助けを求めると、だれかが 手を貸してくれる豊かさ

布川 ぼくは小豆島も初めてだし、
わからないことがたくさんあつた
んですよ。ひとり暮らしも、自炊
も初めてだし。それで近所の方に
あれこれたずねると、ビックリす
るほど親切に教えてくれるんです。
はじめは遠慮していたんですけど、
そのうちどんどん聞けるようにな
ったのが、ぼくの成長かな。

やす 東京ではわからないことが
あると、すぐスマホ、見ちゃうじ
やない？ 村にいと人に聞く。
教えてもらうのが普通なのね。

布川 人になんでも聞くのは申し
訳ないという遠慮は、人間関係を
小さくしちゃうような。

やす 頼れるところは頼っていい
んだよね。その代わり、ぼくが頼
られたら、できるだけのお返しを

したいと思うようになる。困った
らすぐ電話して集まって、みんな
で協力してナントカしようとする。
頼り方が濃いんだよね。

布川 やすさん、移住中になにか
困ったこと、ありましたか？

やす ヤマメ養殖場でアルバイト
した後、生け簀の水が冷たかった
のか熱が出たの。家で寝ていたら
おばちゃんたちが様子をみに来て
くれたり、おかゆをつくってくれ
たり。あと、ぼくの家は山の上の
方であって、町まで降りると帰り
が大変なのね。バスは4時で終わ
っちゃうし、本数も少ないしね。
でも知り合いの車が通りがけると
乗せて帰ってくれるの。知り合い
が増えるにつれ、足で苦労するこ
とはなくなった。

布川 タクシーいらないですね。

ぼくの家はシャワーだけでお風呂
がなかったんですよ。ドラム缶で
風呂をつくらうと思ひ、「どっか
で手に入りませんか？」と近所の
人にたずねたんです。そうしたら
3日後、近所の大工さんがやって
来て、お風呂をつくってくれたん
です。お湯も引いてくれて。

やす えっ？ タダで？

布川 はい。気づいたら、ペラン
ダに風呂釜があつて。

やす すごいなあ、どうしてタダ
なんだらう（笑）。ぼくがお手伝

いした道の駅で木の看板をつくる
ときも、大工さんがタダで協力し
てくれたの。予算が少なくて、
いいよつ、やるよつて感じ。

布川 それでも経済はまわってい
るんですよ。不思議ですよ。

やす なんか豊かだよ。時間の
余裕も都会とはケタ違いだけど、
心の余裕もあるから、助けを求め
られたとき協力できるんだと思う。
布川 小豆島には先輩の移住者も
多いんです。移住した当初、彼ら
がいろいろ教えてくれるのも心強
かったですね。

やす ぼくも移住の先輩に「村の
しきたり」を覚えてもらった。先
に知っておけば不安はないよね。

3か月の移住生活で 故郷ができた！

やす いま、若い人たちが地方に
注目しているって聞くけど、小菅
村にも地域おこし協力隊の若者た
ちがいて、よく酒を飲みました。
彼らがそのまま定住して、結婚し
て家族をつくるというなあ！と
ういうのがぼくの願い。

布川 小豆島の堀越という村では
高齢化が進んで、祭りが途絶えた
んですよ。それを移住してきた
若い人たちが復活させようとかん
ばって、ついに復活したそうです。

やす 移住中に多摩源流祭りとい

う大きな祭りがあつて、ぼくは山
伏の役を仰せつかったんですが、
村が一丸となって成し遂げる祭り
は重要だと思ひ。それに祭りの日
は、外に出ている人が子づれで帰
省するから村が一気に華やぐ。あ
れ見て、地域には子どももののパワ
ーが必要だと痛感しましたわ。

布川 子どもを育てるなら絶対、
島がいい！ フナムシなんて気に
しない、たくましい子に育つ。ぼ
く、はじめはギョツとして。

やす 都会ツ子だもんねえ。

布川 ええ（笑）。小豆島には瀬
戸内芸術祭に参加する若いアー
ティストも来ます。彼らは「あの裏
道のカフェが好き」とか言う。立
派な観光ホテルより隠れ家的な民
宿のほうに魅力を感じるんですよ。
島の今後を思うと、いまの島のよ
さを生かしながら活性化できると
いいなと思ひます。もし大きな施
設を一つだけつくるとしたら大学
がほしい。ちょうどぼくの年代が
島にいないんです。

やす 小豆島布川大学、いいね！
ところで東京に帰ってきてどう？

布川 島が懐かしくて。じつはも
う一度、行ってきました。泊めて
くれる方、たくさんできましたし。

やす ぼくも来年の正月は宮崎じ
やなくて小菅に帰りますよ（笑）。



3か月の移住ドキュメンタリ
ー。現在、ドロズ石本が千
葉県いすみ市に、福井に美が
長野県飯島町に移住中。テレ
ビ朝日系列全国ネット/日曜
18時30分～



PROFILE

布川隼太
1992年東京都出身。愛称「ふ
っくん」。2007年『3年B組金
八先生』(TBS)でデビュー。
『予告編ビギンズ』(フジ)、映
画『原罪』などに出演。10月
から舞台タクフェス『くちづ
け』に出演予定。『イチから
住』では香川県小豆島に移住。



PROFILE

やす
1969年、宮崎県出身。国際武道
大学出身で柔道二段。2000年
に飯尾和樹とお笑いコンビ「ず
ん」を結成。特技は柔道をはじ
めとする武術、ゴルフ、大声。
「細かすぎて伝わらないモノマ
ネ選手権」で活躍。『イチから
住』で山梨県小菅村に移住。



地方創生担当大臣
石破茂さん

2

スペシャル
インタビュー

地方と東京が力を合わせて “プラスサム”の関係に

地方創生の取り組みがスタートしたのが昨年の9月。1年弱が経過し、地方創生のトレンドを徐々に感じられるようになってきたように思います。

地方へ人々が移住するというのは、国にとってどういうことだと思いますか？ それは単に、東京に集中した人と富を、地方へ還元するというものではありません。

これから20年あまりの間に、東京は歴史上、他に例を見ない超高齢化社会を迎えます。首都直下型地震にも備えなくてはならない。東京には大きな負荷がかかるわけですが、同時に東京は世界の、経済あるいは文化の中心地として、もてる力を十分に発揮しなくてはなりません。一方で地方は人材を求めています。仕事はあるけれども人材が足りない。

だからこそ地方に力を注ぐのです。地方と東京が力を合わせることで、どちらか一方だけが豊かになるのではなく、“プラスサム”になる関係をつくるのです。

地方は食糧をつくり、再生可能なエネルギーをつくり、子育てしやすい環境があって出生率も高い。

その地方の可能性を、このまま衰退させてしまうわけにはいきません。それが地方創生、ひいては日本創生につながります。

都会で暮らしていると、個人は何万人、何百万人のうちのひとりに過ぎません。ところが地方に行くと、何百人、何千人のうちのひとりになります。何万人のなかでは埋もれてしまう特技や能力が、地域のコミュニティでは重宝され、生かされます。地方創生は、ひとりひとりが能力を生かし充実した人生を送るためにも、重要な仕事だと感じています。

地方の仕事の生産性と所得を いかに上げていくか

今年3月、東京・八重洲に「移住・交流情報ガーデン」がオープンしました。全国17・18市町村の就職、就農、住まいなどの情報を、ここでひととおり集めることができます。

5月には「そうだ、地方で暮らそう!」国民会議をスタート。経済・金融界、学会、労働界など、各分野の識者と、地方移住を進めるための知恵を絞っています。

またこの一年で、移住を希望する人にとってなにかネックになっているのを見えてきました。

最大のネックは、移住したいけれども仕事はあるの？ という不安です。いま地方には首都圏以上に仕事があります。けれどもその生産性や所得、安定性は十分とはいえない。これをいかに公共事業に頼らずに高めていくか。また、移住したらいま住んでいる家をどうしよう？ という悩みもありますね。こうした課題に、ひとつひとつ取り組んでいこうと思います。

PROFILE

石破茂
1957年生まれ。鳥取県八頭郡出身。慶應義塾大学法学部卒業。1986年、29歳で衆議院議員初当選。2002年に防衛庁長官（小泉内閣）、2007年に防衛大臣（福田内閣）、2008年に農林水産大臣（麻生内閣）を歴任。2014年9月から地方創生担当大臣。



企業に地方移転を促す税制「SHIFT」、学生むけ「地方創生奨学金」のポスターとともに。